

## 成長段階に合った演技を見事に披露したクリスマス発表会！会場から歓喜の声も！～大きなステージでも頑張りました！～ 《12/10》

12月10日(土)に、真岡市民会館「いちごホール」を会場としてクリスマス発表会が行われました。今年も「新型コロナウイルス感染症の感染拡大」により実施が危ぶまれましたが、保護者の方のご協力により予定通り行うことにしました。感謝申し上げます。

園児たちは、13時の開場とともに保護者の方と一緒に指定されたそれぞれの客席に集合しました。出番の早い年長さんや年少さんは、先生の指示に従い舞台のそでに集まり楽屋へと向かいます。楽屋では、出番の準備をしたり集合写真を撮ったりしました。

13時30分になり、いよいよ始まりました。「開会のあいさつ」では、「子ども一人ひとりを主役に」をモットーとしている高ノ台幼稚園らしく、年長組の代表園児があいさつを務めました。はじめの言葉や発表会を行うための「おねがい」などを元気いっぱい伝えることができました。



「プログラム1番、年長組全員による合奏です。曲は「メリーさんのひつじ、カエルの合唱です。どうぞお聞きます。」とプログラム紹介も年長組の園児が分担して行いました。合奏では、去年の年長さんの演奏を見てあこがれをもった鍵盤ハーモニカでの演奏です。今回の演奏のため、去年の12月から1年かけて準備をしてきました。今年の10月頃からは週に1回程度、11月に入ってから、毎日練習に励んできました。しかし、直前の1週間は新型コロナウイルス感染のためクラス閉鎖となり、追い込みの練習ができないまま本番を迎えることになりました。しかし、ぶっつけ本番にも関わらず、年長さんらしくしっかりと演奏をすることができました。会場からも大きな拍手が送られ、園児たちの誇らしげな顔が印象的でした。



プログラム2番は「年少組男児」によるお遊戯「1、2、3」です。リズムカルな曲に合わせ、勢いのある動きが多い振り付けをしているので、男児にはぴったりのダンスです。特に、「レッツゴー！」と歌う振り付けの時に腕を回しながらしゃがんで、その後にジャンプをするところがとても男の子らしく格好よくできました。また、「レッツゴー！」というかけ声も大きな声で言うことができました。練習の時にはジャンプのタイミングがずれることも多かったのですが、「本番では集中していたせいか見事に決まったのには本当に驚いた。子ども達の無限の力を感じた瞬間でした。」と担当の愛梨先生も驚いていました。先生方と園児たちが一緒に作り上げた発表会だと実感しました。



プログラム3番は年中「ひまわり組」による「さんびきのこぶた」です。仲良しの小ブタ・中ブタ・大ブタが作ったワラと木とレンガの家を吹き飛ばそうとやってきたオオカミ。どの家が飛ばされずに残るのか。小ブタはポンポンを持ってワラの家を仕上げようとするダンス、中ブタはノコギリとカナヅチを持って木の家を作ろうとするダンス、大ブタはレンガを持ってペタペタと貼り合わせレンガの家を作るダンスを披露します。そしてオオカミは「フーフー！」と息を吐き、それぞれの家を吹き飛ばそうとする動きを披露しました。それぞれが音楽やお話に合わせ、話の内容を踊りで伸び伸びと表現することができました。練習では友だちと動きが同じになるように、繰り返し練習に励んでいました。また、他の役の振り付けも覚えるほど集中して取り組んでいました。そのためリハーサルの時より、さらに曲やお話に合わせて元気いっぱいに表現することができました。**ひまわり組の様子は次号でも！**